

百万本のバラ

「恋は自分本位。愛は相手本位。その間で揺れ動くのが恋愛中。愛には『自分』がなく、すべてが愛する相手だけのものになる。」 三輪明広

1969年私は中学生でした。その69年パリで『ピロスマニ展』が開催され、女優マルガリータ本人が現れました。彼女は記者に「当時は、彼の愛がわからなかった」と語ったというエピソードがあります。

これを聞いたときずっと以前こんな映画を見たことがあったなあと思い出しました。「許婚と山に行き遭難してしまった。男は深い氷河の奥底に転落してしまい、女性は男性が氷河に流され地表に現れるまでひたすら彼を待っていた。半世紀ぐらいたったのでしょうか。彼が発見され、その胸にあるペンダントを開くとそこには違う女性の写真があった」

ピロスマニは1862年生まれ。幼少のころ家族と死別、早くから天涯孤独でした。彼は1918年55歳で没していますので、死後50年を経てマルガリータはピロスマニについて語りました。その口から出たのはなんと「当時は、彼の愛がわからなかった」です。もしピロスマニが聞いたなら大変なショックを受けたでしょう。だって町中のバラを買ってマルガリータに送ったのですから。片思い？これって自分本位？相手本位？

ピロスマニは下描きもせず直接黒地のキャンバスに色を塗っています。だからでしょう「女優マルガリータ」(АКТРИСА МАРГАРИТА)もどちらかと言うと暗い画面になっています。恋をしているうきうき感はありません。しかもマルガリータは青い空をバックに白いドレスに白いバラを手にして立っています。

「百万本のバラ」の作曲はライモンズ・パウルスでラトヴィアの人。作詞者はアンドレイ・ヴォズネセンスキー、ソ連時代のロシア人です。したがって少し穿った見方をするとロシア国旗のように歌詞の中に赤を入れたのかもしれませんが。赤・青・白



「女優マルガリータ」

АКТРИСА МАРГАРИТА

1909年制作 ジョージア国立美術館 310×205

文責：B朝倉